



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第52号
2010. 3月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・2月に発生した雪崩と地すべり ・トピックス
・転出者あいさつ

2月に発生した雪崩と地すべり

■ 雪崩

2月6日19時40分頃、長野県山ノ内町で雪崩が発生しました。発生した雪崩は国道292号を横断し、国道に面しているホテルに達し、2名が負傷しました。当センターでは、長野県の依頼により石井所長、伊藤研究員他2名が現地調査及び当面の雪崩発生の危険性と対策について技術支援を行ってきました。

写真-1には、雪崩が発生した斜面の全景を示しました。雪崩は、標高1,780m付近で発生し、水平距離で約190m離れたホテルまで達しました。雪崩の規模は、幅25~30m、厚さ1.2~1.5m、破断面の延長は約25mと推定され、破断面最上部からホテルまでの見通し角は24°でした。

写真-2は、積雪断面の観察を行っている様子です。積雪表面から122cmの深さにざらめ雪と新雪の境界があり、ざらめ層上側に厚さ2cm程度のこしもざらめ雪の層が確認されました。雪崩は、この層をすべり面とする面発生乾雪表層雪崩と見られます。

■ 地すべり

2月27日午前3時頃、富山市折谷地区の黒川と小清水谷との合流点から約1.5km上流の地点で、幅約100m、長さ約150mの地すべりが発生しました。当センターでは、富山県の依頼により石井所長と中村交流研究員が、現地調査及び当面の地すべり発生の危険性と監視・応急対応についての技術支援を行ってきました。

写真-3は、発生した地すべりの様子です。地すべりは斜面末端付近の土塊が泥流化し、小清水谷を約1.5km流下して黒川との合流点付近まで達しました。



写真-1 雪崩が発生した斜面の全景



写真-2 積雪断面の観察の様子



写真-3 地すべりの全景

トピックス

■雪崩防災シンポジウム

国土交通省と栃木県が主催する雪崩シンポジウムが、1月28日に日光市で開催されました。このシンポジウムは、雪崩災害の恐ろしさの再認識や防災に対する意識向上などを目的に、毎年この時期に行われています。当センターからは、石井所長が「雪崩災害と対策の実態」と題して基調講演をした他、パネルディスカッションに参加し、コメンテーターをつとめました。



■第4回「地すべり防止施設点検学習会」

国土交通省利根川水系砂防事務所、群馬県砂防課主催による「第4回地すべり防止施設点検学習会」が、2月3～4日に群馬県藤岡市で開催されました。この学習会は、関東甲信地区の国、都県、研究機関の地すべり担当者が、地すべり防止施設の維持管理手法について学習し、意見交換を行う目的で開催されているものです。今回は、41名の参加がありました。



3日の学習会では、当センターの丸山総括主任研究員が「地すべり防止施設の維持管理―地表水・地下水排除施設の現状と課題―」、地すべりチームの石田主任研究員が「地すべり防止施設の維持管理等に役立つ技術」について講義を行いました。4日には譲原地すべりで現地実習が行われ、集水井や横ボーリングの内部の点検手法や排出水のpH、鉄分量の計測手法の研修などが行われました。

■斜面防災対策技術講習会講演

2月9日に、富山市において(社)斜面防災対策技術協会富山県支部、富山県治水砂防協会、NPO 法人富山県砂防ボランティア協会主催の「地震と防災を考える斜面防災対策技術講習会」が開催されました。当センターからは、ハスパトル専門研究員が「最近の地震と地すべりについて」と題して講演し、中越地震、中越沖地震など最近の地震による地すべりとその分布の特徴について紹介しました。

■クロアチア共和国の大学関係者など来訪

2月17日に、クロアチア共和国のザグレブ大学、リエカ大学、地質調査所から6名の教授や技術者らが新潟大学の丸井



教授らとともに当センターを訪れました。当センターでは、石井所長が研究概要の紹介、ハスパトル専門研究員が地震による地すべりに関する研究を紹介し、討論を行いました。また、雪崩の模型実験、リングせん断試験機を視察して頂きました。

■モンゴル国科学アカデミー オルホンスレンゲさん来訪

3月12日に、モンゴル国科学アカデミーのオルホンスレンゲさんが当センターを訪れました。当センターでは、ハスパトル専門研究員が重点プロジェクト研究の「地震による地すべりの危険度評価に関する研究」について紹介しました。また、土質試験機、低温室での雪崩実験を視察して頂きました。



転出者あいさつ

■雪崩・地すべり研究センター所長 石井靖雄

2年間お世話になりました。当センターの調査研究の実施にあたりましては、多くの皆様のご支援を賜りました。厚くお礼申し上げます。業務では、現地調査や防災訓練などの場を通じて、様々な立場の方のお話を伺うこともでき、貴重な経験となりました。秀麗な妙高山や火打山をはじめとした自然豊かなこの地での勤務に感謝をしております。ありがとうございました。



■交流研究員 富樫香流 (H20.10～H22.3 在籍)

1年6ヶ月にわたり交流研究員としてお世話になりました。今冬季は通勤にも困難なほどの積雪で雪国を実感しました。志賀高原のスキー場での雪崩災害では初動調査に参加させて頂き、貴重な経験をさせていただきました。



今後はセンターでの経験を生かし、微力ですが災害対策に貢献したいと思います。ありがとうございました。

雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター

住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8

TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>

掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。